

## 『北方人文研究 (Journal of the Center for Northern Humanities)』執筆要項

1. 原稿には投稿票（別紙様式）を付ける。投稿原稿には題名のみを記し、2行空けて本文を始める（執筆者名等は記さない）。査読は匿名でおこなわれるので、本文中で執筆者が特定できるような表現は避ける。
2. 用紙設定はA4判とし、上下左右に3.0cmのマージンを取り、和文原稿は10.5ポイント文字で1ページに40字×40行で、英文原稿は12ポイント文字で1ページに40行横書きで書く。数字は原則として算用数字を用い、記号や符号は慣用に従うこと。
3. 原稿には使用言語による要旨（20行程度）を冒頭に付ける。
4. 本文中に文献に言及する場合は、カッコ書きで（著者姓 発行年：頁数）のように記すこと。参考文献は論文末に一括して作成し、著者名のアルファベット順か50音順として、記載は以下にならうものとする。和文文献と欧文文献を分けるかどうかは各投稿者の専門分野の慣例にしたがう。

### ● 和文・欧文を分けず、アルファベット順に配置する場合

Comrie, B and Sandra A. Thompson (1985) Lexical Nominalization. In: Timothy Shopen (ed.), *Language Typology and Syntactic Description, Volume 3, Grammatical Categories and the Lexicon*: 349–398, Cambridge: Cambridge University Press.

服部健（2000）『服部健著作集：ギリヤーク研究論集』札幌：北海道出版企画センター。

Ikegami, J. (1985) B. Pilsudski in Uilta and Olcha studies. In: Executive Committee of the International Symposium (ed.) *Proceedings of the International Symposium on B. Pilsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture*: 168–172, Hokkaido University.

池上二良（1987）「ウイльта語・オルチャ語研究における B.ピウスツキ」加藤九祚・小谷凱宣（編）『ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究』（国立民族学博物館研究報告別冊 5）：275–282, 国立民族学博物館。

益岡隆志編（1993）『日本語の条件表現』東京：くろしお出版。

Zhong, Suchun (1982) *Dawoeryu Jianzhi* [A Concise Grammar of Dagur]. Beijing: Minzuchubanshe.

### ● 和文・欧文を分け、それぞれ五十音順とアルファベット順に配置する場合

大石勇（1994）『伝統工芸の創生：北海道八雲町の『熊彫』と徳川義親』東京：吉川弘文館。

春日直樹（2002）「物語ること」森明子編『歴史叙述の現在：歴史学と人類学の対話』：196–220, 京都：人文書院。

ブルデュー, ピエール（1990）山縣熙・山縣直子訳『写真論』東京：法政大学出版局。

Chapin, Paul H. and Foster, John W. (2001) *Peacebuilding Policy Consultations and Dialogues: A Study of the Canadian Experience*. Canadian Peacebuilding Coordinating Committee. <http://action.web.ca/home/cpcc/attach/PPCD.pdf> [accessed 2016-10-27].

- Clastres, Pierre (1974) *La Société contre l'Etat*. Paris: Les Éditions de Minuit.
- Malinowski, Bronislaw (1941/1968) An Anthropological Analysis of War. In: Bramson, L. and Goethals, G. W. (eds.) *War: Studies from Psychology, Sociology, Anthropology*: 245–268, New York: Basic Books.
- Stocking, G. W. (1968) *Race, Culture and Evolution: Essays in the History of Anthropology*. Chicago: University of Chicago Press.

5. 注は脚注とし、本文中に上付きの算用数字で通し番号を付ける。
6. 写真・図表は執筆者によって提供された画像・図表ファイルをそのまま使用する（JPEGが望ましい）。また、写真・図表の著作権や使用許可については執筆者が責任を負うこととする。それらのキャプションは本文中に挿入する。画像・図表ファイルは本文中に組み込んだ上で、別ファイルとして提出する。
7. 論文の内容には十分な倫理的配慮を要するが、考慮を要する場合には、必ず本文中に著者の責任のもとで倫理的配慮をおこなったことを明記する。
8. 著者校正は二回を原則とし、必要最小限の修正のみをおこなう。
9. 掲載決定後に英文要旨（タイトルを含めて1ページ）を提出すること。

（2016 年 10 月改訂）